

駅の発車メロディー

湘現会会員 飯田朝明

私は、平成23年12月に30年ほど住んでいた丹沢山の麓の町秦野から湘南の町大磯に転居した。70歳間近になって引越しをした理由はいくつかあったが、大磯生まれの大磯育ちで、そこには実家の昔からの墓地もあったので、つまるところ、父母やご先祖から呼ばれたのではないかと思っている。

私が湘現会に入ったきっかけは、大磯転居後の翌年5月頃、職場の上司だったTさんに拙宅を訪ねて頂いた際、会のことを紹介されたことである。Tさんは連絡して頂いたようで、その数日後、当時の代表の井森さんが送ってくださった会を紹介する資料が家に届いた。私は、それを見て8月に定例会があることを知り、当日鎌倉芸術館に行き、講演を聴いたのち入会したという次第である。

ところで、湘現会の定例会等に出席するには、大磯駅でJR東海道線に乗って行くが、隣の平塚駅に着くと、発車時に「笹の葉さーらさら」というメロディーが流れて来るのに気付いた。辻堂駅では「あーした浜辺をさまよえばー」である。それ以前の私は、小田急線で渋沢駅から東京中心部まで、又ある時期は相鉄線等を乗り継いで横浜市内まで通勤していたが、こうした駅メロには特に気付かなかったのであるが、初めてそれが気になるようになったのである。

そこで、神奈川県内の駅の発車時のメロディーについて、インターネットでも調べながら、感じたことなどを書いてみた。

まずはJ線小田原駅で、「お猿のかごや」である。ご承知のように、小田原は北条早雲時代からの城下町であるとともに、江戸時代は東海道の宿場町であり、箱根八里の起点でもあった。駅の改札口の天井には大きな小田原提灯がぶら下がっているが、この曲には、「小田原提灯ぶら下げて」という歌詞が入っているため、選ばれたのだそうである。電車が発車する何秒か前から、このメロディーが流れると、よき往時を一瞬でも思い起こさせてくれるし、愛嬌もあるので、私は、とてもいいと思っている。

二宮駅は、「朧月夜」である。駅の北側には吾妻山という小高い山があるが、その山頂付近には菜の花畑がある。地元の人が丹精込めて育てたものだそうで、毎年2月から3月にかけて見事な菜の花の黄色の起伏が広がる。晴れた日は富士山も思ったより間近に望むことができ、その白雪を頂いた高嶺と青い空と菜の花畑とが良くマッチした情景が、そこにはある。だから、私としては、このメロディーも気に入っている。

平塚駅は、「たなばたさま」である。平塚は、第2次大戦末期に大空襲を受け、焼野が原になった。戦後荒廃した町を復興するため、商店街の主だった人達は、町のシンボルとなるようなものを創ることを目指して仙台まで視察に行き、結果七夕を始めることにしたそうである。今では、「平塚の七夕」は、本場をしのぐくらいに有名になっているので、この曲も、いいと思う。

茅ヶ崎駅はサザンオールスターズの「希望の轍」であるが、インターネットで検索する

まで、私はこの曲を知らなかった。この曲の選択は地元の商工会議所の青年部の人達が運動した結果のようであり、これに異を唱える形になるが、駅メロは、できるだけ誰もが知っている曲がいいと思うので、茅ヶ崎は加山雄三が若いころ住んでいた土地なので、彼の歌である「君といつまでも」のような、もっと多くの人が知っている曲の方がいいのではないかと私は思っている。

辻堂駅は、「浜辺の歌」である。歌人の林古溪が辻堂海岸をモチーフに作詞した曲で、近隣の住民が署名活動までして採用されたのだそうである。発車時、このメロディーがホームに流れると一陣の浜風がさーっと流れてくる感じがして、何とも言えない、爽やかな気分させてくれる。私は、この曲は神奈川県内のベストの曲ではないかとまで思っている。

横浜駅は、JR線のホームは普通のメロディーであるが、京急線のホームは「ブルーライトヨコハマ」である。最近何回かこのホームを利用する機会があったが、電車接近時、鉄琴をたたくような軽やかなメロディーが流れてくると、これはいいと思った。また聞きたくもなった。

川崎駅は、JR線も京急線も世界的な歌となった坂本九の「上を向いて歩こう」である。彼は川崎の出身であり、レコード会社が売り出すに当たって、「隣のお兄さん」のようなキャラクターにしようとしたそうである。この曲は、日本有数の工都であり、庶民的な町でもある川崎によく似合っている。

JR線を南に戻って、桜木町駅であるが、「線路は続くよどこまでも」である。この曲は、桜木町が日本最初の鉄道敷設時の横浜駅だったことから、その2代目駅舎の100周年記念に因んで選んだのだそうだが、桜木町や横浜という町のイメージを伝えるものが何もないと感じる。同駅は一昔前は京浜東北線の終着駅であって、「港ヨコハマ」を象徴するような古い駅なので、童謡の「赤い靴」だとか横浜出身の日本の代表的な歌姫、美空ひばりの「港町十三番地」とか、もっともっと似合う曲があるのではないかと思う。

駅はその町の中心であり、顔でもある。その住民にとっては多くの人が毎日利用する所であり、それ以上に、他の町の多くの人が日々通り過ぎる場所でもある。駅のメロディーは、その駅が置かれている町のイメージを瞬時に思い起こせるものが一番いいし、その曲を聞くだけで明るく楽しい気分になるものもいい。欲を言えば、誰にも親しまれている曲がいいと思う。それらをすべて兼ね備えた曲を選ぶのは、至難のことかもしれないが……。

湘現会のご当地の鎌倉駅は、数年前までは童謡の「鎌倉」だったが、今は普通の曲である。我が大磯駅も大船、藤沢の各駅も普通の曲である。今のところピタリと合うような曲がないのかも知れないが、これらの駅のホームにも、素晴らしいメロディーが流れてくる日が早く来ることを期待している。